

GEN 自然と親しむ会

秋のきのこの見に行こう

～ 開催要項 ～

秋はきのこの季節、講師の栗栖敏浩さんの案内で吹田市の万博木根公園を訪れます。平坦で歩きやすく、意外ときのことに出会える場所です。

きのこを観察しながらそれぞれの特徴や役割について学びましょう。軽いハイキング気分で秋の万博記念公園の散策を楽しめます。初心者大歓迎です！

日時	2025年10月18日(土) 10時～15時ごろ
場所	万博記念公園(吹田市)
講師	栗栖敏浩さん(樹木医、(株)松本微生物研究所)
参加費	一般700円、GEN会員300円
定員	20名

～ 開催記録 ～

参加人数	9名
------	----



シロソウメンタケ



午前中に集めたキノコを同定



トガリベニヤマタケ



カイガラタケ



同定した結果



アカハツ



キツネノタイマツの幼菌



キツネノタイマツ



しおれたキツネノタイマツ

GENのきのこ観察会は好天、つまりきのこ観察に適さない天候のことが多いのですが、今回は2日前に降雨があり、20種以上のきのこを観察できました。きのこはその働きによって、樹木と共生する外生菌根菌、木材を分解する木材腐朽菌、落葉を分解する落葉分解菌にわけられます。今回はそのすべてのグループを見ることができました。かさが分厚く食べ応えがありそうなイグチの仲間にはキノコバエが産み付けた卵から孵った幼虫(ウジ)がいっぱい入っていましたが、その種類を同定するには苦いかどうか味をみる必要が…。

また、最後に見つかったキツネノタイマツは、卵のような幼菌もあって、割ってみると中にオレンジ色のキノコの原型を見ることができました。

温暖化できのこも時期がずれたり、種類や数が減ったりしていますが、気を付けてみると身近な場所でも見ることができます。植え込みや芝生などで観察してみましよう。

GEN なんでも勉強会オンライン

タネからはじまる森づくり－苗木生産の現場から

～ 開催要項 ～

生物多様性のための在来種の苗木など、時代とともに求められる樹種や生産方法が変わるなか、苗木生産の現場はどうなっているのでしょうか。滋賀県東近江市にある松居農園の松居琴子さんをお招きし、苗木生産の現場のようすをお話しいたします。

日時	2025年9月27日（土）12時30分～15時ごろ
手段	Zoom
講師	松居琴子さん（松居農園（株）取締役、農業生産法人（有）木楽ファーム代表取締役）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	14名
------	-----



GENが中国黄土高原で植えた木は約1900万本。苗木生産者にはそれだけお世話になったのに、会ったり話を聞いたりしたことはありません。今回、生産現場のお話をうかがいとても勉強になりました。

一般的に苗木の用途は、都市用（住宅、公共施設等）、林業用に分かれますが、松居農園ではさらに里山用にトレーサビリティを重視した地域性苗木も生産販売しております。

林業苗は、温暖化で苗木の成長と出荷のタイミングをあわせるのがむずかしくなったそうです。また、公共施設に植える苗木は、数年かけて育ててから納入するのですが、途中で計画が中止になるとせっかく育てた苗木を処分しなければならないことも…。地域性苗木では、比良山スキー場跡地の緑化や、企業とコラボして水源の森保全など、環境や生物多様性の保全にも実績があります。庭木も扱ってられるので、お悩みの方はご相談いただけます。

GEN なんでも勉強会オンライン 黄土高原スタディツアー報告会

～ 開催要項 ～

コロナ禍の自粛以来6年ぶりの黄土高原スタディツアー。現在の協力地河北省張家口市蔚県と、以前の協力地山西省大同市を訪ねました。蔚県では地元の事情で緑化協力地の村を訪ねることができず、植樹、交流ができませんでしたが、打樹花や飛狐峪など、自然や歴史を堪能。大同では呉城郷のアンズ果樹園の変化や、采涼山のマツの成長を確かめることができました。

今回は雨で道路が崩れるなどして予定通りにいかないことも多かったのですが、そのなかでもGENのツアーならではの体験をしていただけたと思います。

日時	2025年9月4日(木) 19時～20時30分
手段	Zoom
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	29名
------	-----



蔚県の平地にもソーラーパネル



溶けた鉄を壁に打ち付ける打樹花



雨で水没した道路



西古堡の古い街並み



製作途中の切り絵



羊のしゃぶしゃぶの鍋を囲む



大同のマンション群を橋から望む



雲崗石窟第6窟に入るための行列



大同の街中の様子



大同→北京を2時間でむすぶ高速鉄道



武春珍さん、魏生学さん、王萍さん

今回のツアーは中国は初めてという方から久しぶりという方まで、年齢は10代から80代までの、GENのツアーならではのバラエティに富んだ参加者層でした。平均年齢は高めでしたが、みなさんエネルギーに中国を楽しんでおられました。参加者の感想は中国に対するものになりがちでしたが、今回のツアーがどういう旅だったか、関心をお持ちの方に少しでも伝わっていただければ幸いです。

2025年8月 中国黄土高原スタディツアー

～ 開催要項 ～

コロナ禍で実施できなくなった黄土高原スタディツアーを6年ぶりに実施します。現在の緑化協力地、河北省張家口市蔚県では飛狐峪や空中草原、打樹花で自然と芸能を堪能した後、今年の協力プロジェクト地・大探口村で村人との作業や交流を楽しみましょう。以前の協力地・山西省大同市も訪れ、カササギの森などが成長した姿を確かめます。また、大同のスタッフとの旧交を温めましょう。蔚県や大同は、立秋を過ぎると秋。残暑の日本を離れ、束の間の避暑を楽しめます。

日程	2025年8月22日（金）～8月27日（水）
場所	中国河北省張家口市蔚県、山西省大同市
参加費	関空発着（CA利用）191,000円、羽田発着（JAL利用）206,000円 空港使用料、国際観光旅客税、現地空港税、航空特別保険料、燃油サーチャージ別途。学生割引5万円。GEN会員でない方は別途会費が必要。
定員	20名

～ 開催記録 ～

参加人数	21名
------	-----



【蔚県】レジャー客が増えた飛狐峪。



飛狐峪付近で植物観察。



代王城鎮のアンズ果樹園は順調。



【大同】呉城郷のアンズ果樹園見学。



采涼山のマツが立派に育っている。口泉植物園に残るセンターのシダレニレ



【大同】呉城のアンズはプルーンに継替え。



観光客で賑わう雲岡石窟。



口泉植物園の友好苑は管理棟跡。

雨が多いツアーでした。そのため道路事情で空中草原やカササギの森に行けなかったり、また、地元の事情で村での作業・交流が中止になったり、楽しみにしていたことができなくて申し訳なかったです。けれども蔚県でも大同でも、以前に植えた木々の成長を確かめることができました。大同の呉城郷では、アンズの凍害を避けるためにプルーンに継ぎ変えている様子を見ました。温暖化でアンズの開花期が早まり、開花後に寒の戻りにあって花や幼果が落ちてしまうのです。プルーンはアンズより開花期が遅いため凍害にあいにくいそうです。新しい問題に地元ですっかり対処していたのもしく思えました。

プルーンはアンズより開花期が遅いため凍害にあいにくいそうです。新しい問題に地元ですっかり対処していたのもしく思えました。

GEN なんでも勉強会オンライン

環境と平和

～ 開催要項 ～

平和の反対は何でしょう。戦争？ では、戦争がなければ平和なのではないでしょうか。

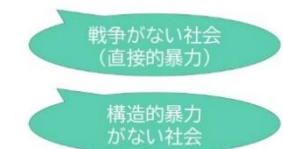
今年は第二次世界大戦後、また、広島・長崎原爆投下後 80 年ですが、ウクライナで、ガザで、そして世界の各地で戦争や紛争が続いています。いま、あらためて平和について、平和のために私たちにできることについて考えてみましょう。

日時	2025 年 7 月 30 日（水）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	小倉亜紗美さん（呉工業高等専門学校准教授）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	12 名
------	------

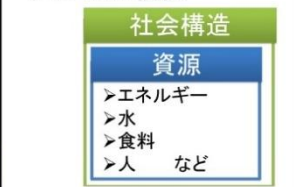
平和って？
平和な社会って？



技術提供をすることは、
環境破壊を防ぎ
争いを防止することにつながる
という意味で平和に貢献する

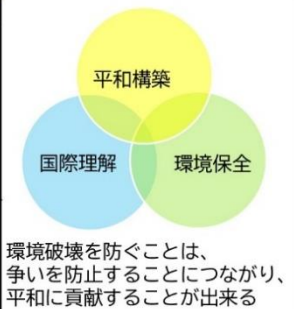
戦争中に、相手国と交流はできない。
国際理解は争いの抑止力となる。

平和な世界の構築
⇒ 持続可能な社会を実現
することが前提



戦争は環境破壊を引き起こす
環境破壊は争いを引き起こしかねない

環境を保全することが
平和につながる



かつては外交手段
の一つだった。

戦争は違法？

1928年「戦争放棄に関する条約
(不戦条約)」締結

ヒバクシャは日本だけじゃない

被爆者 … 原子爆弾による被爆
被曝者 … 放射線による被曝

グローバルヒバクシャ
… 広島・長崎の被爆者だけでなく、核実験・原発事故・ウラン採掘の被害者など、
世界中の全ての被ばく者のこと

市民・消費者としてできることは？

- ・世界で起きていることを知る
 - ・国際理解を進める (外国人の友達を作る)
 - ・環境保全や人権保護や平和に配慮して作られた商品を購入することで、積極的平和を進める
 - ・環境と平和の繋がりについて周りの人に伝える
- など

世界では戦争・紛争が絶えませんが、平和について考え、できることを実践し続けている人たちがいます。戦争がない状態を指す「消極的平和」と、貧困・差別・抑圧などの構造的暴力がない状態を指す「積極的平和」を唱えたのもそんな人たちです。「消極的平和」さえ実現できていないのに「積極的平和」なんてムリ、と折れそうになりますが、貧困・差別・抑圧などが争いの種になることを考えれば、可能な場所から「積極的平和」を広げていくことが戦争などの直接的暴力をなくすことに繋がるのでしょうか。技術提供や環境

協力も、遠回りであっても平和の実現に一役買っていると思えば GEN も少しは役に立っているのでしょうか。やまない戦争の前に個人は直接的には無力ですが、戦争の非当事国で暮らしていることに感謝し、間接的にでも世界の平和にむけて努力していきたいものです。

GEN 第 31 回総会記念講演 農村からみた現代中国

～ 開催要項 ～

中国のアキレス腱といわれた、農業、農村、農民の「三農」問題。新中国成立後、「三農」は軽視され、農村・農民の疲弊を生みました。問題に気づいた中国政府が農村振興策をとり、「三農」問題はかなり改善されましたが、根本的な解決にはいたっていません。

今回の講演では、「三農」で起きた地殻変動ともいべき激変に焦点をあて、食糧生産、農村振興、都市農村間の格差などについて、現地調査の一次情報を交えて、政策・制度や統計データに基づく分析・解説をしていただきます。

日時	2025年6月14日(土) 13時40分～15時20分
会場	大阪産業創造館/Zoom
講師	巖善平さん(同志社大学大学院教授)
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	60名
------	-----

GEN が大同で緑化協力を始めたのが 1992 年。大同の農村は圧倒的に貧しかった。90年代は干ばつが繰り返したこともあり、貧困の印象が濃い。2000年代に入っればらくして、貧

困の影は薄くなった。今講演で、中国の年初の政策文書「中央一号文件」で、1987年から2003年までの17年間農業関係の問題が取り上げられなかったとの指摘を聞いて、GENは現代で中国の農村が一番大変だった時に協力を始めたのだと納得がいった。その後、農家への補助の充実、農業経営の大規模化、輸出入の拡大、戸籍制度の改革などによって農村の絶対的貧困はほぼ解決されたが、都市部との格差、相対的貧困はいまも残り、抱える課題も多い。

GEN なんでも勉強会オンライン

森をあそぼう 森でまなぼう

北欧発祥の森林環境教育プログラムの紹介

～ 開催要項 ～

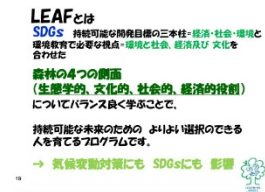
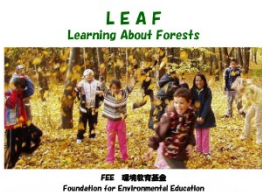
北欧で生まれた森林環境教育プログラム LEAF は、森にあるものを使い、楽しいアクティビティを通じてまなべるプログラムで、北欧諸国では学校教育の一環として取り組まれてきました。対象年齢は未就園児から高齢者まで、参加人数や場所など決まりや制限はありません。なんとなくハードルが高くて森林環境教育に取り組めずにいる方、これからやってみたいと思っている方はぜひご参加ください。

日時	2025年5月29日（木）19時～20時30分
手段	Zoom
講師	伊藤正侑子さん（認定NPO法人FEE Japan 理事長）
参加費	GEN 会員無料、一般 500 円～
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	17 名
------	------

FEE Japan が実施する LEAF とは、Learning About Forests の頭文字をとったもので、森林の多面的な機能と多様性を活用した環境教育プログラムですが、その目的には「森林」という言葉は入っていません。持続可能な社会をつくるための、よりよい選択のできる人を育てること、というのが目的です。お話の前半では、持続可能な社会について SDGs や気候変動問題、またそれらにおける森林の重要性と関連付けて説明があり、後半ではよりよい選択に重点がおかれしました。



持続可能な社会をつくるためには、自分も、社会も変わらないといけない。社会を変えるのは大変そうだけれど、30年前になかったのに今では欠かせないものがいくつもあり、30年で社会は変わると示されました。

「楽しく学ぶ」にはじまり、「気づき」、「理解」、「判断」、「未来への責任」という LEAF の6つのステップ、GEN のイベントなどでもこのステップを何段か上がるように工夫したいと思います。

GEN なんでも勉強会オンライン

1.5℃をめざす世界の動き

- 気候変動に関する国際交渉会議(COP)の最新レポート -

～ 開催要項 ～

2024 年は観測史上最も暑い年となり、気候変動により激甚化した災害が世界各地を襲いました。国際社会ではこの気候危機に立ち向かうためにどんなことを議論し、行動しているのでしょうか。

昨年アゼルバイジャンで開催された COP29(気候変動枠組条約第 29 回締約国会議)に参加し現地で体験したことを交えながら、気候変動問題に取り組むための国際的な枠組みであるパリ協定や 1.5℃目標、気候変動に関する国際交渉会議(COP)について紹介します。

日時	2025 年 4 月 23 日 (水) 19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	田中十紀恵さん (認定 NPO 法人気候ネットワーク国際コーディネーター)
参加費	GEN 会員無料、一般 500 円～
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	21 名
------	------

まず、地球温暖化は人間活動が原因であるのは疑う余地がないと判明していること。産業革命前と比べて、世界の平均気温上昇を 1.5℃未満に抑えることをめざす必要があり、そのためには 2020 年代の 10 年の行動がカギとされていること。などを再確認しました。

COP では有効な対策がなかなか出てこないと感じますが、多数決ではなく全ての国の合意で決定されるため、妥協点をさぐることになるそうです。COP29 では気候資金目標が大きなテーマで、不十分ながらも一応の結果は得られました。しかし、排出削減目標は次回に持ち越されています。

トランプ米大統領の影響が心配ですが、アメリカでも 5000 以上の非国家アクターのグループ「America is All in」が政権に関係なく一貫して気候変動対策に取り組むと表明するなど、対策を

進める人たちがたくさんいるとのことで心強く感じました。ひるがえって日本は CCPI による気候変動対策の取り組み評価で 67 か国中 58 位。その日本に暮らす私たちの気候変動問題に向き合う視点が、最後にいくつか示されましたが、「気候変動への取り組みは我慢ではなく、暮らしをよりよくする試み」という一節が印象的でした。

